

児童自己評価・保護者評価・職員評価集計

児童自己評価・保護者評価・職員評価集計				児童割合				児童 平均値	保護者割合				保護者 平均値	職員 平均値
評価 資質・能力		評 価 内 容		4	3	2	1		4	3	2	1		
		職員	児童・保護者											
関わり合う力	1	命の尊重と人権教育の推進	自分のことも友達のこと大切にしている。	83%	17%	0%	0%	3.8	54%	41%	6%	0%	3.5	3.1
	2	授業と日常指導を関連させた道徳教育	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4
	3	心理的安定性のある居場所づくり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1
	4	「きく力」「伝える力」の日常的育成	人の話を最後まで聞いたり、進んで自分の考えを伝えたりしている。	50%	48%	0%	2%	3.5	31%	57%	11%	0%	3.2	3.0
	5	同年齢間及び異年齢間の交流促進	同じ学年の人や違う学年の人と、あいさつをしたり遊んだりしている。	78%	20%	2%	0%	3.8	44%	50%	6%	0%	3.4	3.4
やり抜く力	6	よりよい生活習慣の形成	規則正しい生活をしている。	37%	46%	15%	2%	3.2	15%	56%	30%	0%	2.9	2.8
	7	体力を向上させる取組の充実	体力が向上するようにがんばっている。	56%	35%	7%	2%	3.4	28%	44%	24%	4%	3.0	2.9
	8	保健・安全・食に関する指導の充実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3
	9	達成感を得られる機会の創出	当番の仕事や、自分で決めたことを最後までがんばっている。	59%	39%	2%	0%	3.6	28%	61%	9%	2%	3.1	3.4
	10	ほめて伸ばす指導の推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4
自ら学ぶ力	11	「熊本の学び」及び「人吉型授業」の推進	授業に進んで真剣に取り組んでいる。	56%	41%	4%	0%	3.5	33%	56%	9%	2%	3.2	3.0
	12	基礎的・基本的事項の確実な定着	音読や読書、漢字、計算の学習をがんばっている。	63%	37%	0%	0%	3.6	31%	50%	17%	2%	3.1	2.9
	13	児童と教師の目指す姿の共有	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3
	14	ICT活用等による授業のUD化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5
	15	授業や自己の課題とつながりのある家庭学習の推進	授業で学んだことや、自分の苦手なことを意識した家庭学習に取り組んでいる。	44%	46%	9%	0%	3.4	15%	50%	28%	7%	2.7	2.9
働き方改革		働き方改革の視点を持ち、勤務時間の自己管理や業務の効率化、意識改革等に努めている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.2

〈集計結果から〉

- 児童が、保護者や職員よりも「できている」「頑張っている」と捉えている傾向は、前期と同じです。「4」「5」「7」「15」については、前期との比較で0.1～0.2ポイント増加しています。より一層、「できている」「頑張っている」と捉えている場面に気付き、タイムリーに認め、具体的に褒め、力強く励まし、期待をかけていきましょう。
- 「より良い生活習慣の形成」については、保護者評価が4／6学年で3.0未満となっています。保護者も、現状に課題を感じておられることの結果だと思います。健康面や生活リズム、精神的な安定の面等から、家庭と共通理解を図っていきましょう。なお、「おこぼDay」の取組も、積極的に活用しましょう。
- 「達成感を得られる機会の創出」については、保護者の評価が0.2ポイントダウンです。ほぼ全ての学年でダウンしており、生活習慣に係る評価と併せて、育ちの停滞を感じておられるのかもしれませんが。職員の評価は好転していますので、学校生活でできたことややり遂げたこと等を、家庭にどんどん伝えていきましょう。
- 「熊本の学び」等の推進について、現在、授業構想部が中心となって、「質の高いめあて」を念頭に授業改善に取り組んでいただいています。今後も粛々と、子供を学びの主体とする授業力向上、学力調査等の結果を踏まえた授業改善、共通実践事項の励行を徹底していきましょう。
- 「基礎的・基本的事項の徹底」については、いろいろな取組方があると思います。東京書籍のドリルシート・フォローアップシート等の確実な活用と併せて、継続した、汎用的読解力をベースとしたPISA型読解力の育成に取り組ましょう。音読についても、初見の文章でもすらすらと読めるよう鍛えましょう。
- 「授業や自己の課題とつながりのある家庭学習の推進」については、前期に比べ、保護者の評価が0.2ポイントダウンです。家庭で、宿題や自学の支援等に苦慮されているのかもしれませんが。「自分で計画して取り組む家庭学習」のために、振り返り活動等による自身の学びの状況の自覚と具体的な家庭学習（特に自学ノート）のイメージ化が必要かもしれません。
- 働き方改革に係る職員の自己評価については、前期に比べ0.4ポイント増の大幅アップです。先生方の元気と活力が、児童の学びを支えます。現場でできることを、知恵を出し合い一緒に進めていきましょう。
- 職員の自己評価が、16の評価項目中14項目で好転しています。先生方が、様々な場面において、丁寧に取り組んでこられたことがわかります。その成果は、児童の姿からも伺えます。ありがとうございます。

令和6年度 学校評価(後期)三者評価結果

評価 資質能力	評価内容		職員	保護者	児童
	職員	児童・保護者			
関わり合う力	1	命の尊重と人権教育の推進 自分のことも友達のこと大切に行っている。	3.1	3.5	3.8
	2	授業と日常指導を関連させた道徳教育	3.4	-	-
	3	心理的安全性のある居場所づくり	3.1	-	-
	4	「きく力」「伝える力」の日常的育成 人の話を最後まで聞いたり、進んで自分の考えを伝えたりしている。	3.0	3.2	3.5
	5	同年齢間及び異年齢間の交流促進 同じ学年の人や違う学年の人と、あいさつをしたり遊んだりしている。	3.4	3.4	3.8
やり抜く力	6	よりよい生活習慣の形成 規則正しい生活をしている。	2.8	2.9	3.2
	7	体力を向上させる取組の充実 体力が向上するようにがんばっている。	2.9	3.0	3.4
	8	保健・安全・食に関する指導の充実	3.3	-	-
	9	達成感を得られる機会の創出 当番の仕事や、自分で決めたことを最後までがんばっている。	3.4	3.1	3.6
	10	ほめて伸ばす指導の推進	3.4	-	-
自ら学ぶ力	11	「熊本の学び」及び「人吉型授業」の推進 授業に進んで真剣に取り組んでいる。	3.0	3.2	3.5
	12	基礎的・基本的事項の確実な定着 音読や読書、漢字、計算の学習をがんばっている。	2.9	3.1	3.6
	13	児童と教師の目指す姿の共有	3.3	-	-
	14	ICT活用等による授業のUD化	3.5	-	-
	15	授業や自己の課題とつながりのある家庭学習の推進 授業で学んだことや、自分の苦手なことを意識した家庭学習に取り組んでいる。	2.9	2.7	3.4
働き方改革		働き方改革の視点を持ち、勤務時間の自己管理や業務の効率化、意識改革等に努めている。	3.2	-	-